



あなたが、



歴史の目撃者

になる

歌舞伎鑑賞会招待券(無料)を配布します。



「大願成就 殿下茶屋聚」

(たいがんじょうじゆ てんがちゃやむら)



出演者：中村吉右衛門、中村富十郎、中村梅玉ほか

会場：国立劇場大劇場 営団地下鉄半蔵門線 半蔵門駅  
営団地下鉄半蔵門線・有楽町線・南北線 永田町駅

受付開始日時：2001年10月5日(金) 午後1時から

※すべて先着順で受付をします。10月公演5回分を同時に受付します。

※ひとりにつき1枚1公演のみとします。

※本学学生が対象となります。本人が学生証を持って受付場所に来てください。

受付場所：多摩キャンパス 学生課  
後楽園キャンパス 理工学部学生生活課

公演日時	定員
① 2001年10月13日(土) 正午	30名
② 10月16日(火) 午後4時30分	30名
③ 10月19日(金) 午後4時30分	30名
④ 10月20日(土) 正午	30名
⑤ 10月21日(日) 正午	30名

※公演時間は、休憩を含めて約4時間30分を予定しています。

この行事は、日本の伝統芸能を鑑賞する機会を持つことによって、幅広い教養と知識と文化を理解することをねらいとしています。



# CAMPUS ACTIVITIES FESTIVAL



- 1) 原則として、応募者全員に参加賞をさしあげます。
- 2) 応募者同士の交流懇親会を開催します。
- 3) 多摩都市モノレール駅構内に入選作品の一部を展示します。

## 募集ジャンル 芸術部門

〈全学部学生（個人または団体）が対象です〉

絵画・写真・書・陶芸・デザイン・\*フリーホームページ  
\*学生部のトップページを募集します。

## 募集ジャンル 理工学部部門

〈理工学部学生（個人または団体）が対象です〉

フリーホームページ・コンピューターグラフィックス  
\*芸術部門のフリーホームページとは異なります。

<http://www.2.chuo-u.ac.jp/gakuseibu>

受付期間：2001年10月15日(月)～19日(金)

受付場所：多摩キャンパス 学生課  
後楽園キャンパス 学生生活課

詳しくは、学内で配布されるパンフレットをご覧ください。



## 学生部のホームページデザイン（トップページ）募集要項

現在、学生部が公開しているホームページを参考に、あなたの自由な発想にて、トップページをデザインしてください。

<http://www2.chuo-u.ac.jp/gakuseibu>

入選した作品は、表彰式の翌日から1年間学生部のトップページとして掲載する予定です。

トップページは、2フレーム構成（左右または上下）とし、左右ならば左、上下ならば下に余白部分を作ってください。学生部が余白部分に下記の項目を掲載し、リンクを貼ることによって利用者に情報を提供していく予定です。

### 掲載項目（予定）

- ・左または下ページ（余白部分）  
学生部の窓口時間のお知らせ、学生部カレンダー、奨学金、大学祭・新歓祭、イベント、オピニオン・ボックス、アパート、アルバイト、相談、利用施設、ボランティア
- ・右ページまたは上ページ  
最新情報（各種行事のお知らせ等）

### 応募方法

フロッピーディスク1枚にデータを収めて本人が直接、受付場所に提出してください。電子メール、郵便、宅配便等での受付はしません。

### 受付場所

- 多摩キャンパス 学生課
- 後樂園キャンパス 理工学部学生生活課

### 受付期間

2001年10月15日(月)～10月19日(金)

### 応募するにあたっての注意

#### ◎技術的条件

- 1) 作品は、WINDOWS で対応できるものに限りします。
- 2) 画像は、JPEG、GIF、PPM のいずれかの形式で作成してください。
- 3) ホームページの対応するブラウザは、NETSCAPE NAVIGATOR4.0以上またはINTERNET EXPLORER4.0以上に適応したものにしてください。
- 4) 作品容量はフロッピーディスク1枚(1.44MB)にし、圧縮ファイルは入れないでください。
- 5) アニメーションなどの動画を入れてもいいですが、容量を越えないようにしてください。

#### ◎応募条件

- 1) 使用ソフトを明示できるようにしてください。
- 2) 応募は、1人または1団体につき1作品とし、独自に作成したものとしてください。
- 3) 応募した作品は、理由のいかんを問わず返却しません。
- 4) 審査の結果、入選作品のないこともあります。

#### ◎権利的条件

- 1) ホームページ作品に用いられる全ての要素は、他人の知的財産権や肖像権を侵害してはなりません。
- 2) 入選作品については、複製権、翻案権と公衆送信権の独占的許諾が無期限、中央大学に対して無償でなされたものとして扱い、必要な範囲の修正にも応じていただきます。

※このホームページの募集は、CAMPUS ACTIVITEIS FESTIVAL 2001 芸術部門のうち1ジャンルであり、理工学部部門のフリーホームページとは異なります。

以上



## 第35回白門祭

—今年度白門祭のテーマ『祭時記』—

開催期間：2001年11月1日(木)～11月4日(日)

◆白門祭とは？ 中央大学の学園祭を白門祭と言います。白門祭は来場者数公称6万人、総企画数600を越える全国でも最大級の規模を誇っています。実施企画は、講演会・展示企画・飲食模擬店など非常に多岐に渡り、大学構内、教室、ペDESTリアンデッキは白門祭期間中多くの人で賑わいます。

また白門祭は、「自治・文化活動発露の場」という理念の下に開催されています。その自治という観点から、白門祭は企画の立案・準備・実施・事後処理に至るまで全て学生の手によって自主的且つ主体的に行われています。もちろん、白門祭は全中大生に開かれたものであり、その学性の下、白門祭は創出されていきます。そのような学生が主体となった祭が白門祭なのです。

◆35⇔21 白門祭は今年度で35回目を迎えます。白門祭実行委員会は一昨年度、白門祭を主催する団体として公認されました。今年度は公認されて第2回目の白門祭となります。そして、21世紀最初の祭でもあります。節目の年とも言える今年、私たちは新たな時代を迎えて白門祭の更なる発展を目指して臨んでいくつもりです。

◆白門祭の歴史 第1回白門祭は1957年に駿河台キャンパスにて行われました。当時は、大学構内にとどまらず、周辺地域をも巻き込んだ祭だったと言われていました。しかし、1960～1970年代にかけては全国的に学生運動が巻き起こり、その影響で中央大学も祭どころではなくなり、白門祭実行委員会も組織できなくなってしまいました。

多摩移転後は、未公認ながらも白門祭実行委員会は再建され、白門祭は再開されます。その後の白門祭は、不断の努力で絶えず発展を模索し、一昨年度にはその実績を大学から高く評価され、白門祭実行委員会は公認されることになったのです。

◆地域定着へ 中央大学は、その立地条件から周辺地域との隔絶が指摘されています。大学は閉鎖された空間であるべきではなく、学外とも自由に交流がなされる場であるはずで。そして、広範な人々との活発な交流が新たな文化の創出につながっていくと考えます。

こうした観点から、私たちは「地域に根ざした白門祭」をその理念の1つに掲げ、白門祭を地域住民の方との交流の場とすべく積極的に活動し、白門祭を共に創りあげていきたいと思っています。

◆おわりに 簡単ではありますが、白門祭について紹介してきました。白門祭は、その全てが学生の手により運営されています。誰かに創られるモノではありません。企画を出す人や参加する人から来場者の方までを含め、白門祭という空間を共有する全ての人によって初めて、白門祭は白門祭となります。

とは言え、実際に参加してその雰囲気を感じてみるのが、白門祭を理解する早道でしょう。今年度も多くの参加を心からお待ちしております。

白門祭実行委員会委員長 多田 淳也

お問い合わせ先：白門祭実行委員会事務局（サークル棟1階）

（TEL：0426-74-2899）





2001 SPECIAL EVENT

STUDENT AFFAIRS OFFICE PRESENTS

# クリスマスリースを作ろう!

あなたの部屋に



与えてみませんか。



2001年12月5日(水)  
午後1時～午後3時

多摩キャンパス グループカウンセリングルーム(5号館地階)

2001年11月12日(月)午後1時よりすべて先着順で受付します。

定員12名限定 参加費用1,000円

受付場所：多摩キャンパス 学生課  
後楽園キャンパス 理工学部学生生活課

定員になり次第、締め切りをします。本人が学生証と参加費用を持って受付場所に来てください。2001年11月30日(金)午後5時で申込の最終締め切りをします。

この行事は、日常生活の身近にある草花を使って、居住空間に潤いをもたらし、自然とともに生活する楽しさを味わうことをねらいとしています。



## お茶会に参加して

茶道ってどういうものなのか知っていますか？知っているようで知りませんよね。私も、お茶碗を手の平にのせて、もう片方の手でくるくる回す位しか知りませんでした。このお茶会もなんとなく新しいことをやってみようかなと、軽い気持ちで参加しました。初めて中に入った中大のお茶室はうそみたいに静かでした。木々に囲まれた石畳を登ると自然と雰囲気もそれらしくなって、心が落ち着いてきます。

お茶会といっても全く堅苦しいものではなく、分からないことはどんどん質問して下さい、という感じでした。初心者の中でも、みようみまねでそれなりにちゃんとできました。調子に乗って、私はお手前の体験までやらせて頂きました。全くやり方がわからないので、一つ一つの動作を全て教えてもらいました。手を添える向きなど細かい決まりがあって難しかったです。でも奥ゆかしい振る舞いをすると、心の中までそのような気分になるので不思議です。このところ疲れ気味だった心に余裕が生まれるのです。集中することで雑念を取り払うかのごとく、もやもやした心が整理されたようです。

この6月のお茶会のために2月から準備され



ていたそうです。(本当のお茶会では、主人はこういうことは表に出しません。)どんなお茶碗にしようか、お菓子は何がいいか前もって予約したり、飾る花が当日に最高の状態で咲くように、冷蔵庫に入れて調整したりと打ち合わせも何度も行ったそうです。前もって準備をしっかり行うのが茶道だと思います。常に先を読んで行動するのです。このことは、普通の生活に通じるものと思いませんか？だからこそ400年以上も前に誕生したものが今でもあやかに受け継がれているのだと思います。

百聞は一見に如かずです。興味を持ったらどんどんチャレンジしてみましょう。きっと今まで気付かなかったことに気付くはずです。

経済学部 坂本百合子

## お茶会に参加して

「どうして中大にこんな本格的なお茶室があるのだろう。」というのが入学時の驚きだったことを思い出します。この施設はほとんど外からの訪問客に使われるのが現状のようです。そこで私がこのお茶会に参加したときの印象を多くの人たちにお伝えできればと思います。

まず、茶道とはもてなしの心、即ち相手思いやる心とよく言われます。その具体的なものが、この講習会のために講師の先生が1ヶ月以上前から準備を始められたということだと思います。例えば、使用する茶碗や掛け軸、お茶菓子などです。そして、講習会の当日も朝早くから大学にいらして準備をなさっていたそうです。つまり、もてなす側は、調度良い頃合いで、一番おいしいお茶をたてられるように計算してい



ると考えることができます。

すると当然、もてなしを受ける側もそれに応えることで秩序を保ちます。ですから、茶道の世界では遅刻が厳禁という先生のお言葉を心に留めたいと思いました。また、これは茶道に限ったことではなく、普通の生活にもそのまま当てはまります。例えば、大学の講義を遅刻することです。5分ぐらい遅れていっても大丈夫だろ



をもって受講することができました。

今回救急法を受講して感じたことは、ちょっとした意識や経験の差によって、人命というものは大きく左右されるものだということです。何かが起こった場合、一番速く対応が出来るのはその場にいる人であり、その行動が人命を救う最も大切なポイントとなることを知りました。これは本当に大事なことであり、早く多くの人たちに気づいてほしいことだと思っています。講師の先生方が常に真剣で、時には厳しく指導されていたのも、人の命を救うという行為に対して私たちに本気で取り組んでほしかったから

だと思います。この講習で培ったものを忘れることなく、これからも人命というものに対して真剣に考え続けていかなければならない、そう考えています。

講習中の検定に合格すると、後日認定証が送られてくるのですが、これがなかなかうれしいものです。是非多くの人たちが救命法に興味をもって、この講習会に参加してほしいです。日赤の指導員も、スタッフの方々も、本当に親身になって御指導して下さいますので、大いに好奇心をもって参加してみてください。

経済学部 中川 隆一郎

## 上級救命講習会に参加して

上級救命講習とは財団法人東京救急協会が主催している応急処置法を学ぶための講習会であり、一定の技能を修めたものには上級救命講習の認定がされるものである。

私は応用化学科の学生であり、この先、就職をして社会に出て危険な実験に立ち会う機会を考慮し、万が一事故に遭遇した際に自らの身を守る術と周囲の人間を助けるスキルを身につけようと考え講習会に参加した。

講習は8:50~17:00までの間に行われ、講習の流れは午前に応急手当の重要性及び、傷病者の観察法の講義さらに心肺蘇生法の実技講習を受けた。午後は心肺蘇生法の効果確認及び三角巾を用いた効果的な止血法、固定法。そして傷病者管理や搬送法についての講義を受けた。

講習は人命救助という重々しい内容であったが講義自体は決して堅苦しいものではなく、非常に良い雰囲気の中で行われた。同じ班の受講者とも相談しながら実技を進めることも可能で



あった為に多摩キャンパスから参加している文系学生との交流も図ることが出来た。本講習会で学んだスキルを生かして現在はアルバイト先で万が一の事故が起きた時の応急処置を任されている。皆さんもこのような実用的なスキルを身に付けてみてはいかがだろうか？

最後に講習を行って下さった東京救急協会、東京消防庁の皆さん及び企画を立てて下さった理工学部学生生活課の皆さん、大変意義のある講習会をありがとうございました。

理工学部 岩田 匡司

## 日赤家庭看護法講習会を受講して

この「日赤家庭看護法講習会」は私にとって非常に有意義な経験となりました。3日間という短期間ですが、日赤の指導員の方々や学生課の職員の方が万全に準備、そして熱心に指導して下さいましたお陰で内容の濃い講習会となりました。学部・学年を問わず集まった受講者は皆、





していたので、当日はそれなりに何とかなるだろうと楽観視していました。実際に、試合を試合してみるとリーグ戦2敗で本当にくやしかったけれど、とても楽しかったです。

大学でこういったいわゆるスポーツイベントに参加できるのは嬉しい限りです。

スポーツに限らずこういった企画に参加することで、大学生活にも活気が出てきて、楽しく

なる。大学生活が単調でつまらないと思っていたら、せっかくこういった機会が用意されているのだから、ぜひ一度参加してみてもはどうでしょうか。

最後にこのような機会を与えて下さった多くのスタッフの方々には大変感謝しています。本当にありがとうございました。

経済学部 古晒 陽二

## CAMPUS ACTIVITIES FESTIVAL 2000 に応募して

昨年の秋、初めて芸術部門の「書」に出品しましたが、私の作品の完成までのいきさつや、それに際して考えたことなどについて書いてみたいと思います。

私は町田市民合唱団という合唱団に所属していて、そこで歌ったうちの1曲の中のフレーズでした。私はとても気に入って作品にしてみたいと思ったのですが、そこで2つの壁に当たりました。まず1つの目の壁は曲なしで詩だけを読むと、なんだかとても「クサク」思えてしまったことです。私がどうしてこの曲を気に入ったのかといえば、それは文字通りの「爽やか」さがあったからです。そこで、「私が感じた爽やかさを、曲のかかわりにどうやって伝えたらいいのか」が課題の1つとなりました。

もう1つの壁は、手本がないことでした。手本もなしに書けるのか、だいぶ悩みましたが、2つの壁の根本には、同じような要素が含まれていることに気づきました。

私は以前から、「こう表現したい」という気持ちは強く持っています。例えば、宗教曲を歌うときに、「フォルテと書いてあるからフォルテにしました」と言って声を出すようなことはせず、ボーイ・ソプラノのような、やわらかな声を出すように心がけます。確かに技術は、表  
※本年度も作品の応募の受付をします。詳しくは学内の掲示、ホームページをご覧ください。



現の幅を広げるために、非常に大切なものですが、技術のみに目がいってしまえば、本当の意味での芸術ではないと思うのです。だから、今現在、自分が持っている技術の範囲内で、自分が感じたものを表現できればよいと考えました。

それから、文字の大きさ・余白のとり方・表装に使う色紙の色など、様々な試行錯誤の末、できあがったのですが、果たして「爽やか」さを伝えることができたのか分かりませんが、優秀賞をいただけたということは、課題の半分位は達成できたのかな、と思い、自信になりました。これからも「人の心を揺さぶるような、心のこもった芸術」をモットーに、作品作りをして行きたいと思います。

法学部 内田 絵美

## 歌舞伎鑑賞会に参加して

「Hakumon ちゅうおう」のインフォメーションの中に、歌舞伎鑑賞の演目と出演する役者を知って早速申込をしました。松本幸四郎・染五

郎の父子共演で、イヤホンガイド付で2000円で鑑賞できるので、学生の特権だと思いました。以前にも歌舞伎の鑑賞はしたことはあったので





泥酔者問題は生命の問題であり、一刻の猶予もなく緊急に解決すべき問題です。昨年度までは、学生部を中心とした大学側と白門祭実行委員会（白実委）の学生諸君による懸命の見回りの結果、泥酔による行き倒れなどを放置せずにすんだのですが、行き倒れた泥酔者を発見できなかったり、最重篤者の発見が遅れた場合には死亡など最悪の事態を招くことは、パンフに示された過去の例からも明白です。

**第2のポイント**は、学内において学生を生命の危険から守るのは大学としての社会的義務であるという点です。近年の白門祭における泥酔者の発生状況は、死者が出てもおかしくない危険な状況であり、これ以上放置できないという認識に発するものです。今秋の白門祭時における全学禁酒措置は、「泥酔によって人命が危険にさらされる事態を防止する」ための措置であり、人命尊重の視点から生まれたものです。したがって、「学生諸君の自主的な活動を阻害する意図に発するもの」ではけっしてありません。

**第3のポイント**は、主催団体である白門祭実行委員会（白実委）に対する大学側の評価と今回の禁酒措置との関係です。大学は昨年度、それまで白門祭を実質的にとりまとめ運営してきた白実委の活動実績を高く評価し、白実委を白門祭の主催団体として公認しました。白実委が公認された以上、さまざまな問題の解決も白実委を中心に行うべきとの意見もあろうかと思えます。しかし泥酔者問題は、先にもふれたように、人命にかかわる重大問題であり、その解決は大学が責任を負うべきものです。大学は、昨年度まで20年もの間、泥酔者問題の解決にあたっては学生の自主性を尊重し、白実委を中心とした学生諸君の手による問題の解決を期待して、徹夜の見回りや泥酔者の看護など補助的な役割に徹してきました。しかし学生諸君の懸命の努力にもかかわらず、問題は一向に解決しないばかりか、全体の泥酔者数の増加や救急車の要請を必要とする最重篤患者の増加など、近年悪化の傾向すら示しています。ここにも明らかのように、泥酔者問題は大学が責任を負わない限り解決できない危機的な状況に至っています。人命にかかわる問題は緊急に解決されなければなりません。

上記以外にも、白門祭前夜における医師の学内待機、徹夜治療という協力をいただいていた近隣の医療機関から、今秋の白門祭時には本来の医療業務にさしつかえるので協力できない旨の通知が大学に寄せられたこと、また救急車の要請先である消防署から中央大学の泥酔者問題に近年厳しい批判（本学に救急車が出動している間に他から入った要請に緊急出動できなくなることによる生命の危険など）が寄せられていることなども、大学が今回の決定を行うきっかけの一つになっています。

学生諸君は以上のような事情を賢察され、大学が出した秋の白門祭期間中の全学禁酒措置に協力して下さい。大学は一人の泥酔者も出さず、何ら事故もなく白門祭が滞りなく行われることを切に願っています。秋の白門祭はお酒抜きで大いに楽しんで下さい。

# 学生諸君へ

## 白門祭（大学祭）における禁酒措置について

大学は、泥酔によって人命が危機にさらされる事態を防止するために、今秋の白門祭（大学祭）時に、祭前日および祭期間中を通じて全学禁酒とすることを決定しました。このことについて、学生諸君のご理解とご協力を得たいと思います。

全学禁酒とは、白門祭（大学祭）の前日および祭期間中に、飲酒、酒類販売、酒類の持ち込みを一切禁止するという措置です。学生食堂および教職員食堂における飲酒・酒類販売、飲酒を伴う学内のパーティー、また酒類の持ち込みも、すべて禁止とします。これは学生諸君だけではなく、教職員も例外ではありません。

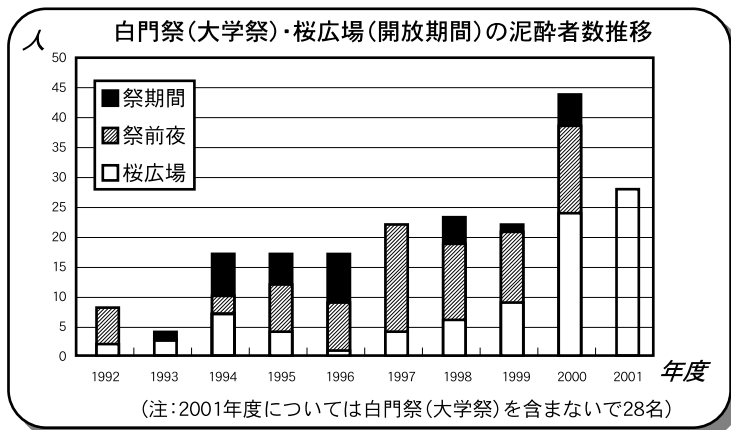
この禁酒措置は、学生諸君の自主的な活動を阻害する意図に発するものではありません。近年の白門祭における泥酔者の発生状況は、死者が出てもおかしくない危機的な状況であり、これ以上放置することは許されません。

白門祭並びに春の新入生歓迎オリエンテーション祭の桜広場における中大生の泥酔状況を知らない諸君もいると思います。しかし下の図表にあるように、大学に残っている記録だけでも、白門祭においては過去およそ10年間ほぼ毎年泥酔者が発生し、かつその数は総じて増加傾向を示しています。昨年度の白門祭は、準備日である前日に15名、祭期間中に5名、計20名の泥酔者を出しました。

また桜広場開放期間における泥酔者数も、多数におよんでいます。1年次の諸君も知っているように、今春2001年度の新歓期には、学生諸君の自主的な泥酔防止の努力にもかかわらず、最初の3日間で28名の泥酔者が出ました。救急車も2台要請しました。大学はこの事態を学生の命が飲酒によって危機にさらされている状態とみて、急遽残りの2日間を全学禁酒としました。幸いおおかたの理解と協力が得られ、この2日間には一人の泥酔者も出ませんでした。

白門祭並びに桜広場における中大生の泥酔は、ほとんどの場合、急性アルコール中毒によるものです。例えば数年前一人の泥酔者が総合政策学部棟わきの池に落下し水没しかかり、たまたま現場付近を通りかかった見回り中の職員によって幸運にも助けられました。また一昨年には、トンネル北側の竹藪の中で倒れている泥酔者が帰路につく学生に発見されて、救われました。

昨年度大学は、それまで白門祭を実質的にとりまとめ、運営してきた白門祭実行委員会の活動実績を高く評価し、白門祭の主催団体として公認しました。しかし泥酔者問題は、先にもふれたように、人命がかかっている危機管理の問題であり、学内において学生を危機から守るのは大学としての社会的責務であると考えています。



2001年7月12日

### 中央大学

- 学長 鈴木康司
- 法学部長 永井和之
- 経済学部長 一井昭
- 商学部長 北村敬子
- 理工学部長 大久保信行
- 文学部長 林茂樹
- 総合政策学部長 河野光雄

**厚生課・理工学部学生生活課からのお知らせ**

**1. 日本育英会奨学金・中央大学貸与奨学金 2次募集について**

日本育英会奨学金および中央大学貸与奨学金の2次募集を下記のとおり行います。

出願を希望する場合は、厚生課・理工学部学生生活課で募集要項、出願申請書等を一冊にまとめた冊子「奨学金一案内と手続」を必ず受領し、出願受付日に必要書類を提出してください。下記受付日、場所、時間以外では一切受付できません。

**対 象** 原則として学部1～3年生（4年生以上は応相談）

**出願受付日** 10月11日（木）・12日（金）

**受付時間** 10：00～11：30、13：30～17：00

**受付場所** 多摩キャンパス：1号館 1410号室  
後楽園キャンパス：理工学部学生生活課

**2. 日本育英会第一種奨学生(2000年度以降採用)およびきぼう21プラン奨学生の皆さんへ**

日本育英会「継続願」の配布および提出を下記のとおり行います。

多摩キャンパスでは当日受付場所にて提出していただきますので、すぐに記入できるように事前に「奨学生のしおり」に掲載の記入例(1999年度採用者は34ページ、2000年度以降採用者は38ページ参照)を参考に、記入内容を考えておいてください。

**対 象** 日本育英会第一種奨学生(2000年度以降採用)  
きぼう21プラン奨学生  
(ただし、休止・成績停止中の場合は除く)

多摩キャンパス(文系 学部生・研究科生)		後楽園キャンパス(理系 学部生・研究科生)	
配布・提出日	10月23日(火)	配布日	10月9日(火)～10日(水)
		提出日	10月22日(月)～23日(火)
受付時間	10：00～11：30 13：30～17：00	受付時間	10：00～12：00 13：00～19：00
受付場所	9号館クレセントホール	受付場所	理工学部学生生活課

- 携 帯 品**
- ・学生証
  - ・朱肉用印鑑
  - ・官製はがき1枚(表裏とも白紙のもの、年賀はがき、かもめーる等不可)

- そ の 他** 次に該当する場合は直ちに届け出てください。
- ・休学・留学・復学・退学
  - ・連帯保証人・家族住所の変更
  - ・奨学金振込口座の変更
  - ・奨学金の辞退

※当日都合により手続きができない場合は、必ず事前に厚生課(文系学生)または理工学部学生生活課(理系学生)へ連絡してください。無断で手続きを怠ると奨学生の資格を失うことがあります。

### 3. 日本育英会第一種奨学生(1999年度以前採用)および第二種奨学生の皆さんへ

日本育英会後期受領資格確認を下記のとおり行います。  
無断で手続きを怠ると1月分からの奨学金は停止されますので、忘れずに手続きを行ってください。

- 対 象** 日本育英会第一種奨学生(1999年度以前採用)  
第二種奨学生  
(ただし、休止・成績停止中の場合は除く)

**受 付 日** 11月7日(水)～9日(金)

**受 付 時 間** 10:00～12:00、13:00～19:00

**受 付 場 所** 多摩キャンパス：厚生課(文系 学部生・研究科生)  
後樂園キャンパス：理工学部学生生活課(理系 学部生・研究科生)

- 携 帯 品**
- ・奨学生手帳
  - ・朱肉用印鑑
  - ・官製はがき1枚  
(表面に住所・氏名・奨学生番号・学籍番号を記入したもの)  
ただし、2002年3月満期予定者は官製はがきは不要です。

- そ の 他** 次に該当する場合は直ちに届け出てください。
- ・休学・留学・復学・退学
  - ・連帯保証人・家族住所の変更
  - ・奨学金振込口座の変更
  - ・奨学金の辞退

## 文化・スポーツ活動等奨励給付奨学金の募集について

2001年度から、学内又は学外における課外活動等に積極的に取り組んでいる学生を支援することを目的として「文化・スポーツ活動等奨励給付奨学制度」を設けました。

ついては、この制度による2001年度文化・スポーツ活動等奨励給付奨学生を下記のとおり募集します。

出願を希望する場合は、厚生課・理工学部学生生活課で募集要項を受領し、募集期間内に必要書類を提出してください。

**対象者(資格)** 本学に在学する学部学生のうち、課外活動等において優れた実績を収めた者又はその活動が高く評価された者や、高い目標を目指し、その努力が認められ、今後の成果が期待できる者  
※団体としての申請は受理しません。

**選考基準**

1. 学術・文化の分野  
課外におけるサークル活動や論文等において社会的に高く評価された者又は今後の成果が期待できると判断される者
2. スポーツの分野  
国内外の競技会において、トップクラスの成績若しくはそれに準じた成績を挙げた者又は今後の活躍が期待できると判断される者

※選考対象は前年度(2000年4月1日～2001年3月末日)の活動分とします。

**募集期間** 2001年10月1日(月)～11月20日(火)

**受付場所** 多摩キャンパス：厚生課  
後樂園キャンパス：理工学部学生生活課

**採用人数** 約30名

**給付金額** 当該年度に納入すべき授業料相当額の2分の1から学費相当額までの範囲内で、申請者の奨励内容に応じて決定します。

# 学生部だより Campus Life Supporter

**給付期間** 単年度  
決定額を一括給付します。(1月中旬予定)

**必要書類**

1. 出願申請書(所定用紙)
2. 活動の内容を評価する資料  
(新聞・パンフレット等発行日・掲載日・発行機関がわかるもの)
3. 活動経歴書又は今後の活動計画書(所定用紙)
4. 成績証明書 1年次は出身高校発行の調査書(卒業後発行のもの)  
その他、必要に応じて上記以外の書類の追加提出を求めることがあります。  
提出された書類は原則として一切返却しません。  
※ 第三者の推薦状は一切受理しません。

**書類の提出先** 学生部事務室厚生課又は理工学部学生生活課窓口へ学生本人が直接提出してください。

**選考** 「文化・スポーツ活動等奨励給付奨学金委員会」において活動実績・活動内容等を総合的に判断し選考します。

**その他**

1. 採用が決定したときは、奨学生本人及び保証人に通知します。  
(12月中旬予定)
2. 奨学生には奨学金が給付された学年度の活動報告書を提出していただきます。
3. この募集要項は本年度の申請にのみ適用されるものです。来年度については募集期間等変更があり得ますのでご注意ください。

\*ご不明な点がありましたら下記までお問い合わせ下さい。  
学生部事務室厚生課 TEL 0426-74-3464

以上